

みさ じろ
水 城 遺 跡

1999年3月
長野県飯田市教育委員会

みさ じろ
水 城 遺 跡

1999年3月
長野県飯田市教育委員会

序

飯田市松尾地区は飯田市街地の南東部、天竜川河岸から段丘面までの広い範囲を占めています。川沿いの平坦地が多く優良な耕地が広がっています。また、古来交通の要衝に位置しており、下伊那最古の古墳といわれる代田山狐塚古墳等の埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を残しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できる限り現状のままで後世に伝えることが私たちの責務でしょう。けれども、同時に私たちはよりよい社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活の様々な場面で文化財の保護と開発という相容れない事態に直面することが多くなっています。こうした場合、発掘調査を実施して記録にとどめることもやむを得ないものといえましょう。

松尾水城地区は、老朽化した地区的集会施設を新築することを計画しました。地域コミュニティー施設の果たす役割を考慮すれば、必要な事業といえます。しかし、当該事業地には水城遺跡が所在し、工事実施によって壊されてしまうおそれができました。そこで、次善の策ではありますが、工事実施に先立って緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることになりました。

調査成果は本文で述べられているとおりありますが、調査で得られました様々な知見は、これから地域の歴史を知っていく上で貴重な資料となると確信しています。

最後になりましたが、調査に当たって多大なご理解とご協力をいただいた地元水城地区と隣接地の方々、現地作業及び整理作業に従事された作業協力員の皆さんほか関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、ここに発掘調査報告書が刊行できることに対して厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例　　言

1. 本書は飯田市が実施した松尾水城地区コミュニティー消防センター建設に先立って実施された、飯田市松尾「水城遺跡」の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、飯田市教育委員会の直営事業として実施した。
3. 調査は、平成9年度に現場作業、平成10年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 調査実施に当たり、基準点測量・写真測量・空中写真撮影を株式会社ジャステックに委託した。
5. 発掘作業・整理作業に当たり、MSJを一貫して用いた。なお、今次調査区の中心地番である3575を略号に続けて付した。
6. 本報告書の記載順は竪穴住居址を優先した。遺構図は本文とあわせ挿図とし、遺物及び写真図版は本文末に一括した。
7. 土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
8. 本書に関する図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により福澤好見が行った。
9. 本書の執筆と編集は調査員の協議により福澤好見が行った。
10. 本書の遺構図に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。
11. 本書に記した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。
12. 本書に記した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

目 次

本文目次

序		(4) 土坑	19
例 言		(5) 遺構外出土遺物	20
目 次		IV ま と め	21
I 経過	1	・水佐代 1号古墳について	21
1. 調査に至るまでの経過	1	・SM 0 1について (墳丘墓)	21
2. 調査の経過	1	・平安時代集落について	21
3. 調査組織	1	引用・参考文献	22
II 遺跡の環境	3	報告書抄録	48
1. 自然環境	3		
2. 歴史環境	6		
III 調査結果	9		
1. 調査の方法と概要	9		
2. 遺構と遺物	9		
1) 古墳時代	9		
(1) 墳丘墓	9		
①SM 0 1	9		
2) 平安時代	11		
(1) 壺穴住居址	11		
①SB 0 1	11		
②SB 0 9	12		
3) 時期不明	13		
(1) 壺穴住居址	13		
①SB 0 2	13		
②SB 0 3	13		
③SB 0 4	14		
④SB 0 5	15		
⑤SB 0 6	15		
⑥SB 0 7	16		
⑦SB 0 8	16		
(2) 壺穴状遺構	18		
①SB 1 0	18		
(3) 溝址	18		
①SD 0 1	18		

図版目次

第1図	調査遺跡及び周辺遺跡位置図	4
第2図	調査位置図及び周辺地図	5
第3図	基準メッシュ図区画調査位置図	7
第4図	遺構全体図	8
第5図	SM01	10
第6図	SB01	11
第7図	SB09	12
第8図	SB02	13
第9図	SB03	13
第10図	SB04	14
第11図	SB05	15
第12図	SB06	16
第13図	SB07	16
第14図	SB08	16
第15図	SB10	18
第16図	SD01	18
第17図	SK01・02・03 05・06	19
第18図	出土遺物 1~5 SM01 6~8 SB01	24
第19図	出土遺物 1~2 SB01 3~7 SB09	25
第20図	SB09 出土遺物	26
第21図	SB09 出土遺物	27
第22図	SB09 出土遺物	28
第23図	遺構外出土遺物	29
第24図	遺構外出土遺物	30

写真図版目次

図版1	水城遺跡遠景・調査区全景	32
図版2	SM01・SB01	33
図版3	SB01 遺物出土状態 SB09・SB09 カマド	34
図版4	SB09 遺物出土状態 SB02・SB05	35
図版5	SB07・SB08・SK01	36
図版6	SK02・SK03・調査風景	37
図版7	調査風景	38
図版8	委託基準点測量作業・委託空中写真撮影 重機表土剥作業	39
図版9	SM01 出土遺物	40
図版10	SB01 出土遺物	41
図版11	SB09 出土遺物	42
図版12	SB09 出土遺物	43
図版13	SB09 出土遺物	44
図版14	SB09 出土遺物	45
図版15	遺物外出土遺物	46
図版16	遺物外出土遺物	47

I 経 過

1. 調査に至るまでの経過

平成9年3月1日付、飯糸交防発第345号にて、飯田市長 田中秀典より飯田市松尾水城地区コミュニティー消防センター建設に係る埋蔵文化財発掘調査について、文化財保護法第57条により通知が提出された。当該地は埋蔵文化財包蔵地水城遺跡の一画に位置し、弥生時代から中世の集落および隣接する水佐代獅子塚古墳周溝の存在が予想される地である。

そこで、双方協議の結果、発掘調査をおこなって記録保存の措置を講ずることとした。

2. 調査の経過

関係者による諸協議を受けて、平成9年6月4日に現地での発掘調査に着手した。

まず、重機により表土剥ぎ作業をおこない、基準点設置作業を実施した後、作業員による遺構検出作業を開始した。そして、堅穴住居址・溝等を検出し、掘り下げて精査し、写真撮影をおこない、空中写真撮影を（株）ジャステックに委託して作業をおこなった。

遺構については、測量作業を順次おこない、平成9年8月11日現地での作業を終了した。

その後、飯田市考古資料館において現地で記録された図面・写真類の整理作業、出土遺物の水洗・接合・復元作業、実測・写真撮影作業、遺構図の作成・トレース、版組み等を行ない、報告書作成作業にあたった。

3. 調査組織

調査担当者	福澤好晃
調査員	佐々木嘉和 吉川 豊 山下誠一 馬場保之 吉川金利 伊藤尚志 下平博行
現場作業員	新井幸子 伊東裕子 木下貞子 木下義男 木下力弥 佐々木阜 田中博人 竹本常子 中平隆雄 仲村 信 中山敏子 原田四郎八 牧内 修
整理作業員	新井ゆり子 池田幸子 金井照子 金子祐子 唐沢古千代 木下早苗 木下玲子 小池千津子 小平晴美 小平まなみ 小林千枝 小林理恵 斎藤徳子 佐々木真奈美 佐々木美千枝 佐藤知代子 関島真由美 高木純子 高橋恭子 田中 薫 筒井千恵子 中沢温子 中田 恵 中平けい子 林勢紀子 林ひとみ 原 昭子 平栗陽子 福澤育子 福澤幸子 牧内喜久子 牧内八代 松島直美 松本恭子 三浦厚子 宮内真理子 森藤美和子 森山律子 吉川悦子 吉川紀美子

事務局

飯田市教育委員会博物館課

小畠伊之助（博物館課長）

小林 正春（博物館課 埋蔵文化財係長）

吉川 豊（ タケル 埋蔵文化財係）

山下 誠一（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

馬場 保之（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

吉川 金利（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

福澤 好晃（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

伊藤 尚志（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

下平 博之（ シヤクイチ 埋蔵文化財係）

牧内 功（ シヤクイチ 庶務係）

II 遺跡の環境

1. 自然環境

飯田市松尾地区は、飯田市街地の南西約2～5kmに位置し、飯田市全域のほぼ中央部にあたる。

東は天竜川を挟み下久堅地区に、北は飯田松川で上郷地区と境を接する。南は毛賀沢川を挟んで竜丘地区となり、西は河岸段丘上で鼎地区と接する。

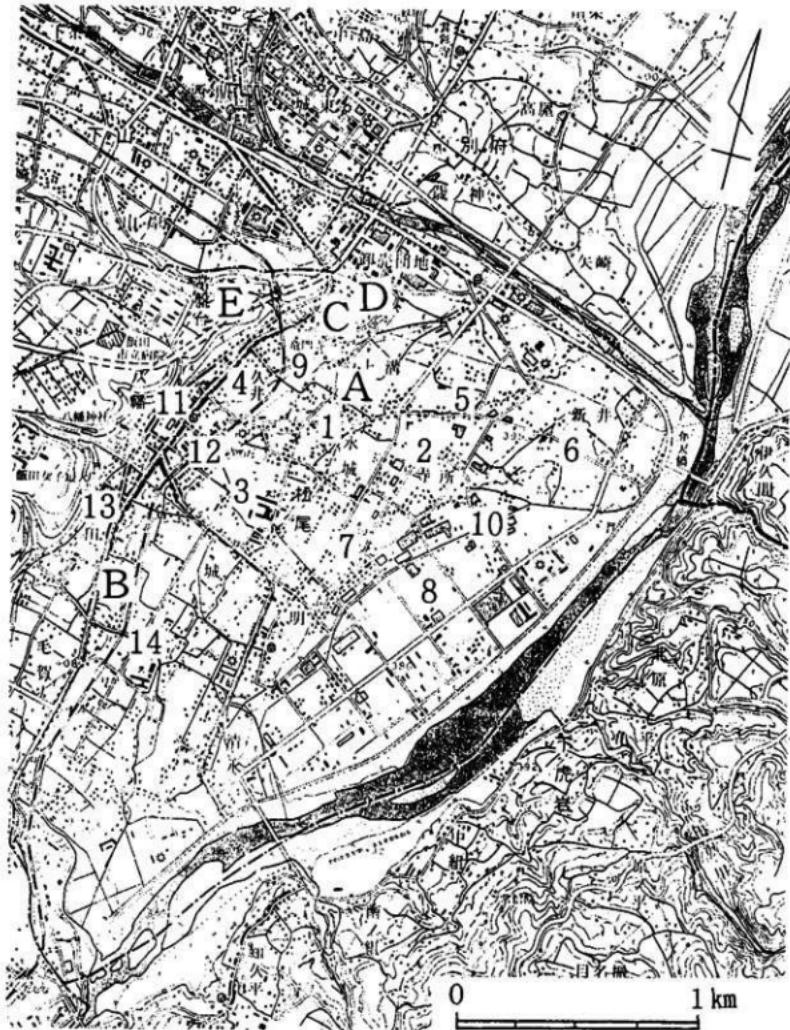
伊那谷の基本的な地形は、天竜川の流れに沿ったほぼ南北方向への断層段丘地形を特徴としている。

松尾地区は、この天竜川が東端を南流し、その氾濫源を含め5～6の段丘面で形成されている。それらは、高位と低位とに大別でき、その境は鳩ヶ峯八幡宮を中心とした段丘崖である。この段丘崖も小河川によりいくつかにわかれ、それぞれに名前が付けられている。北より上の城・茶柄山・妙見山・八幡原・代田山・御射山原・松尾城跡と南へつながっている。

高位段丘の標高は、480m前後で、ローム層に覆われた台地である。低位の段丘は、前述の段丘崖下から天竜川までの間の松尾地区の大半である。この中に5～6面の小段丘があり、それぞれ2～5mの比高差がある。標高は380～430m程度である。それぞれの段丘面の広さは一様ではないが、いずれも南北方向の段丘崖が確認でき、段丘崖直下には湿地が確認できる場合が多い。しかし、大段丘崖からの小河川により、小扇状地が形成されている場合があり、その部分では段丘崖の把握は困難となっている。また、これらの河川や段丘崖の湧き水により、低位段丘は全体に水利は良い。

気候面でみれば、伊那谷は比較的温和であり、松尾地区は飯田市の中でもさらに温暖である。平均気温は13℃に近く、降水量も年間1,600mm程度である。低位段丘は、後ろに段丘崖を背負っているため、冬の北風から守られる格好になっていることも温暖な要因の一つにあげられる。

水域遺跡は、低位段丘の中段に位置しており、段丘崖に平行して南北に細長く伸びている。段丘縁から連続する微高地と、上位段丘崖下に広がる湿地よりなっている。



A 水佐代獅子塚古墳

D 姫塚古墳

B 代田獅子塚古墳

E 御射山獅子塚古墳

C 上溝天神塚古墳

1. 水城遺跡

6. 新井遺跡

11. 八幡町遺跡

2. 寺所遺跡

7. 明遺跡

12. 八幡下遺跡

3. 松尾城遺跡

8. 明河原遺跡

13. 代田遺跡

4. 久井遺跡

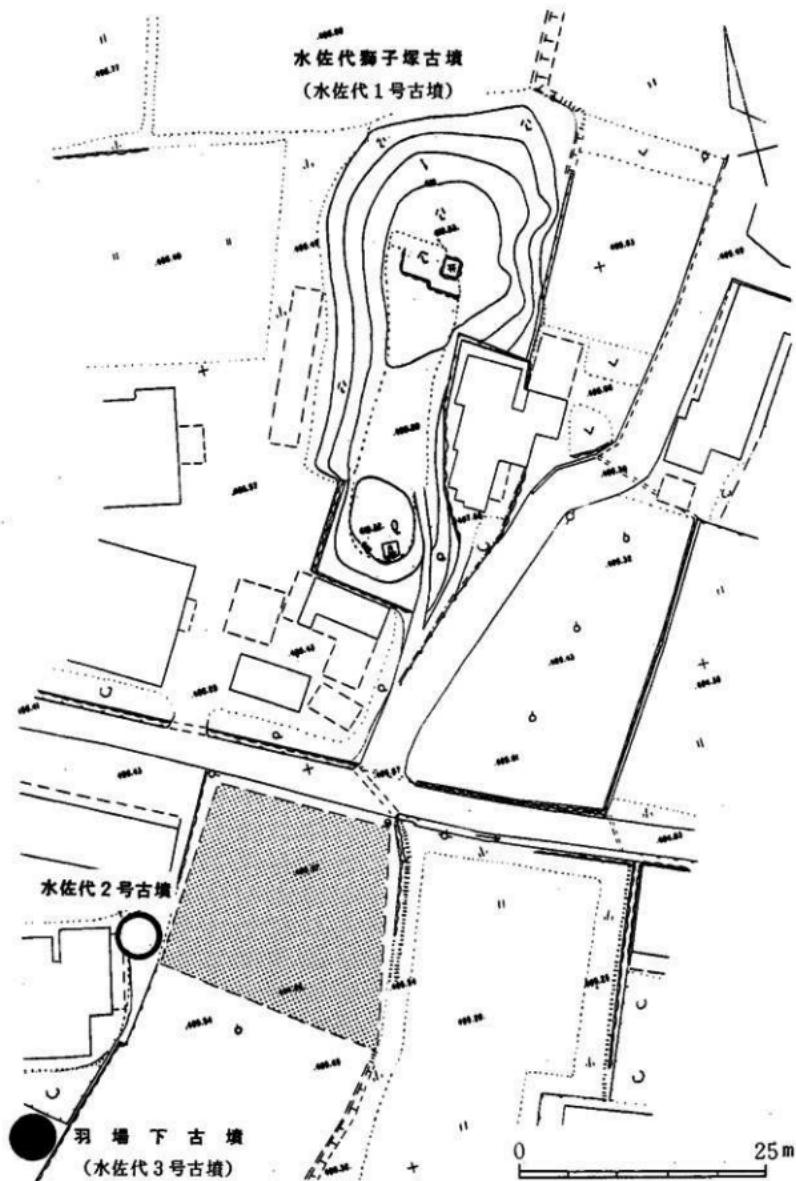
9. 上溝遺跡

14. 田圃遺跡

5. 妙前遺跡

10. 発句遺跡

第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図



第2図 調査位置図及び周辺地図

2. 歴史環境

松尾地区の遺跡を概観すると、天竜川氾濫源及び段丘崖を除いてほぼ全面的に包蔵地であり、古墳の多い事は特筆され、前方後方墳1基・前方後円墳8基と円墳60余基を数える。また、八幡町の旧道際で会所新築に伴う調査で現在の家並の下より石室の一部を検出し、記録の無いまま消滅した古墳が多数存在したことも推測できる。

松尾地区での遺跡発掘調査としては、学術調査により寺所遺跡の一部が昭和43年1月と昭和46年3月に、昭和46年国の補助事業として妙前大塚（3号）古墳が調査されたのが端緒とし、その後は事業実施に伴う緊急発掘調査が増加している。それは、工場新築に伴う南ノ原遺跡・毛賀御射山遺跡、天竜川護岸工事と国道152号取付及び雇用促進住宅建設による清水遺跡、松尾地区公民館建設に先立つ松尾城遺跡、中学校プール建設が原因の田圃遺跡などが調査報告されている。これら、調査された遺跡はそれぞれ重要な遺構・遺物が発見されており、当地方の歴史解明に大きな意味を持つものが多い。

昭和49・50年、平成2年の清水遺跡、平成元年に行われた城遺跡の調査により、弥生時代後期及び古墳時代前期の集落址が発見され、かなり大規模に、かつ安定した生活が営まれていたと判断される。

妙前大塚古墳からは、県宝に指定された「眉庇付冑」が出土し、当地域最も古い古墳の一つとされる。南ノ原遺跡では、中世小笠原氏の重臣居館址と見られる屋敷跡・堀・柵列が調査され、完形の茶臼・天目茶碗等が出土している。

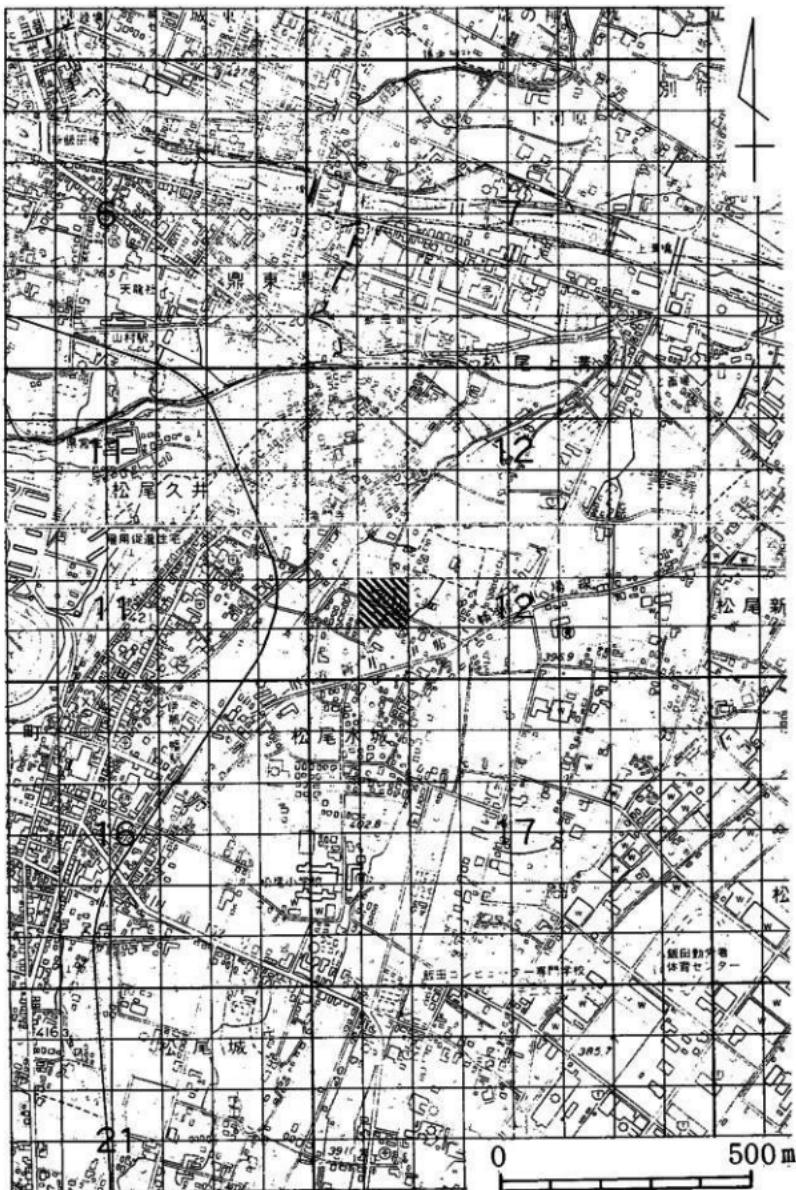
毛賀御射山遺跡からは、平安時代の布目瓦の出土があり、古代寺院の存在が確認できる。

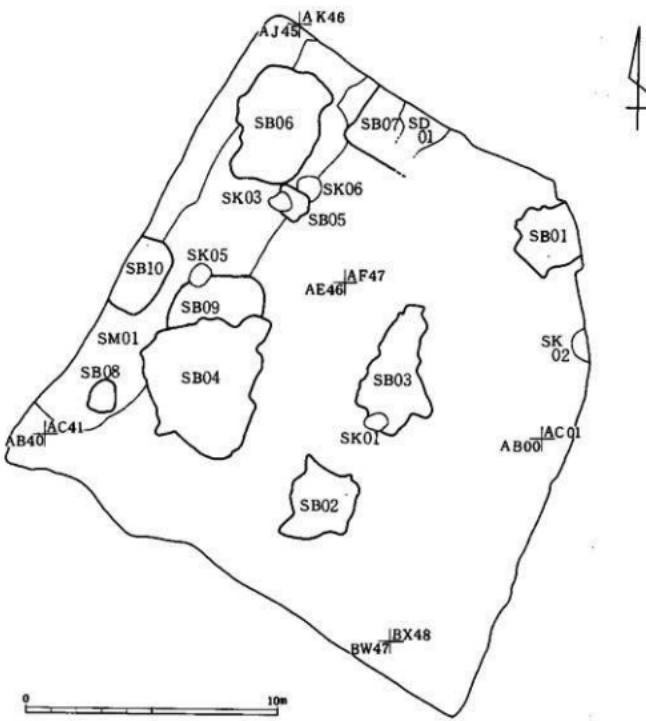
以上が、発掘調査で確認された歴史であるが、中世に入ると諸記録等残っている。

鳩ヶ峯八幡宮の神像銘には、建仁3年（1203）より造率立をはじめたとあり、重要文化財になっている。南ノ原の南端部に築かれた松尾城は、北条氏滅亡後信濃守護職となった小笠原氏の居城で毛賀沢川を隔てた鈴岡城との親族間の確執は史実に明らかである。

歴史的に松尾地区を概観したが、平坦で肥沃な地であり、原始より古代、そして現代まで大いに栄えた地ということができる。

そのような歴史環境の中で、本遺跡は水佐代一号墳に象徴されるように、古墳時代以降松尾地区における大規模な集落の存在が予想されている地である。





第4図 遺構全体図

III 調査結果

1. 調査の方法と概要

用地内を対象として調査区を設定し、既存建物解体後に調査することとなった。

測量用の基準杭設置は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、(株)ジャステックに委託して実施した。なお、基準メッシュ図の区画については『三尋石遺跡 三尋石(II)遺跡』(飯田市教育委員会1996)に詳しく記述されているので、そちらを参照していただきたい。本調査地の区画は挿図3にて示すとおりLC85 12-34である。

今次調査で検出された遺構は以下のとおりである。

墳丘墓

竪穴住居址 9軒

竪穴状遺構 1基

溝 址 1条

土 坑 5基

2. 遺構と遺物

1) 古墳時代

(1) 墳丘墓

①SM01

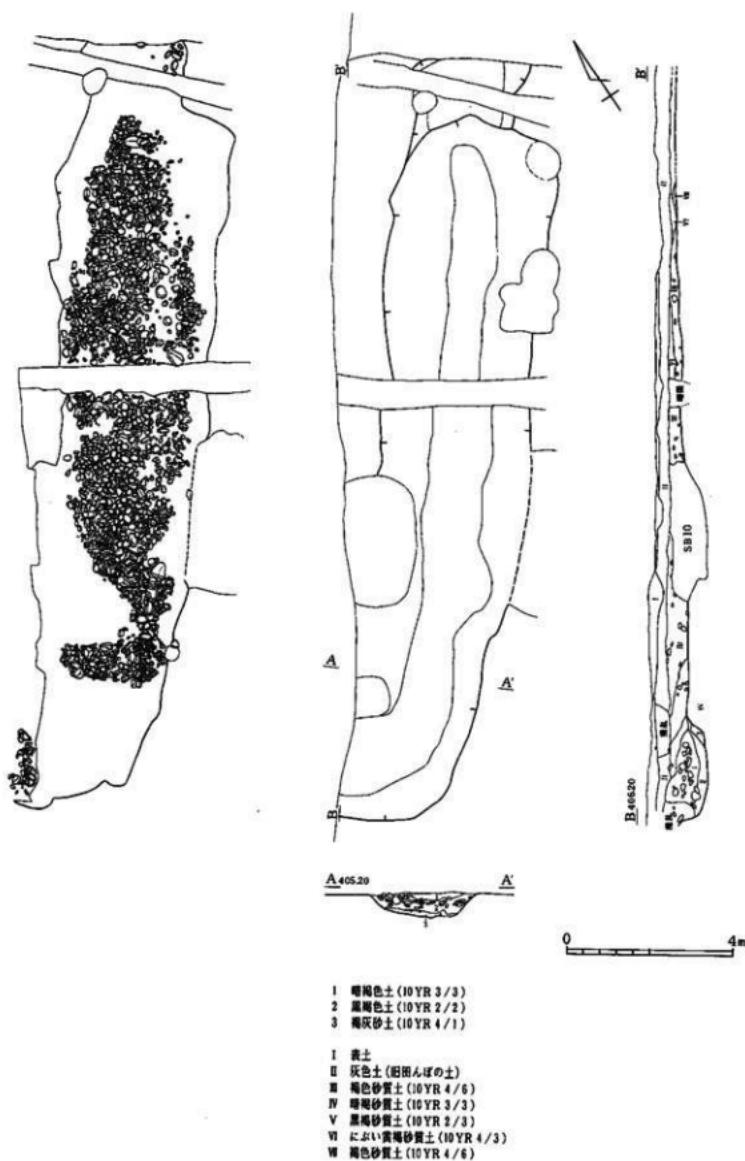
調査区の北西側で、AC-41からAJ-47にかけて南東側の溝の一部18.3mを検出する。北東・北西・南西側は、用地外で調査できないため主体部は不明である。規模・主軸方向とも不明で、方形の墳丘墓と考えられる。溝の幅は2.4~3.6m、深さ58~119cmを測り、緩やかに立ち上がる。

周溝内には、約10~45cmの石が周溝内全体に多量に確認される。この石は本来の位置に残っているものではなく、周溝の埋没過程で、墳丘から周溝にかけて貼られた石が転落したものと考えられる。

また周溝は、AI-46付近で深さ10~20cmと急に浅くなっており、入り口等何らかの施設であった可能性がある。

遺物は、5世紀中頃に比定される高坏、5世紀後半から6世紀前半の蓋坏があり、その他時期の判断できない瓶・高台坏片が出土する。また資料提示できなかつたが、内面黒色土器の坏片が20点程出土する。

高坏・蓋坏は第3層より出土しており、このことより本墳丘墓は古墳時代中期の築造と判断され、それ以降の遺物は、埋没時の混入遺物と考えられる。

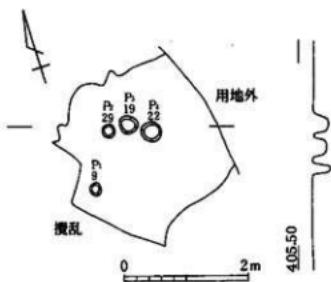


第5図 SM01

2) 平安時代

(1) 竪穴住居址

①SB01

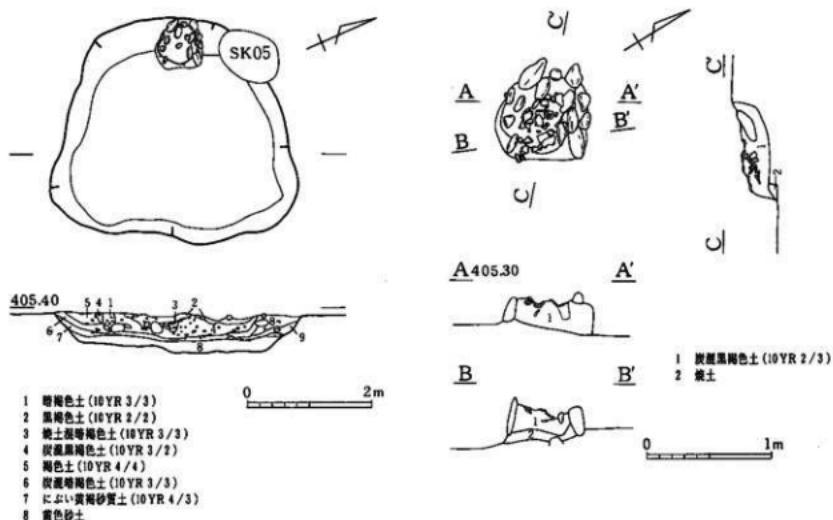


第6図 SB01

遺構番号	SB01	検出位置	AG01
規模	(288) × (248) × -cm	長軸	不明
検出状況	貼床のみ検出する		
重複関係	周囲は既存建物配管工事により壊されており他の遺構との重複関係不明		
壁	削平され確認できない		
床	貼床がされ全体が硬い		
柱穴	P1～P4が確認されるが主柱穴は不明		
カマド	確認されず		
附属施設	不明		
遺物	土師器長胴壺・甕・内面黒色の壺		
その他	削平・擾乱により床面のみ検出され調査区外へ広がる住居址 時期は出土遺物より平安時代9世紀後半と判断される		

表1 SB01

②SB09



第7図 SB09

遺構番号	SB09		検出位置	A-E45	
規模	386×356×58cm	長軸	N62°W	平面形	不整形
検出状況	埋土が明確に異なり検出				
重複関係	SM01を切る SB04・SK05に切られる				
壁	軟弱でやや緩やかに立ち上がる				
床	軟弱で砂質土の地山を床とする				
柱穴	不明				
カマド	1基が確認され袖は石組で構築される 煙道は不明 支脚はなく抜き取り痕も不明 天井石はなく遺物が上部より投棄されたと思われる状態で壺が出土する				
付属施設	不明				
遺物	土器師長胴壺・壺・壺・内面黒色の壺 須恵器壺・壺・蓋・鉢 灰釉陶器平瓶・皿				
その他	遺物は破片での出土が多数あり接合するものが多い 出土遺物より平安時代9世紀後半から9世紀末に比定される				

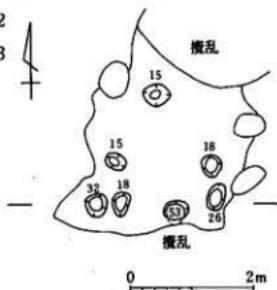
表2 SB09

3) 時期不明

(1) 竪穴住居址

①SB02

②SB03



405.50

第8図 SB02



405.50

第9図 SB03

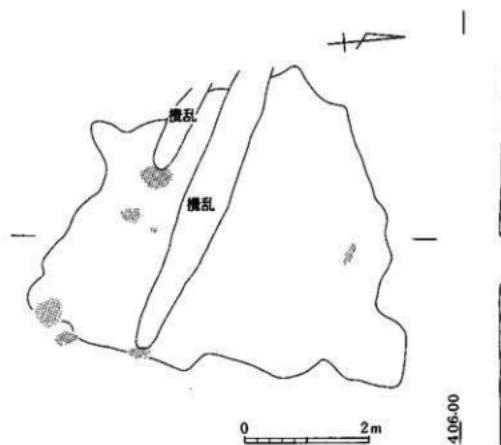
遺構番号	SB02	検出位置	AA46		
規模	(328) × (268) × -cm	長軸	不 明	平面形	不 明
検出状況	床面のみ検出する				
重複関係	周囲が既存建物の基礎工事により壊される	他の遺構との重複関係不明			
壁	削平され確認できない				
床	貼床がされ全体が硬い				
柱穴	pitは確認されるが主柱穴は不明				
カマド	確認されず				
付属施設	不明				
遺物	なし				
その他	四方とも削平・擾乱により切られる	貼床より平安時代9世紀後半に比定される甃が出 土するが1点のみであり住居址の時期等詳細は不明である			

表3 SB02

遺構番号	SB03	検出位置	AD48		
規模	(479) × (304) × -cm	長軸	不 明	平面形	不 明
検出状況	床面のみ検出する				
重複関係	SK01に切られる				
壁	削平され確認できない				
床	貼床がされ全体が硬い 部分的に焼土がある				
柱穴	不明				
カマド	確認されず				
付属施設	不明				
遺物	なし				
その他	削平により床面のみ検出される	わずかに焼土が確認されるものの粘土等はなくカマドの痕跡も確認できない 遺物は出土せず時期等詳細は不明である			

表4 SB03

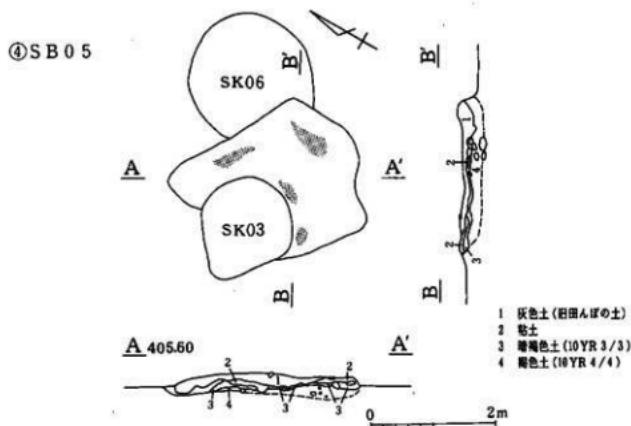
③SB04



第10図 SB04

遺構番号	SB04	検出位置	AD44		
規模	(612) × (508) × -cm	長軸	不明	平面形	不明
検出状況	貼床のみ検出				
重複関係	SB09を切る				
壁	削平され確認できない				
床	貼床がされ全体が硬い 部分的に焼土がある				
柱穴	確認されず				
カマド	確認されず				
付属施設	不明				
遺物	なし				
その他	SB09が平安時代9世紀後半に比定されることより該期以降と判断されるが詳細は不明				

表5 SB04



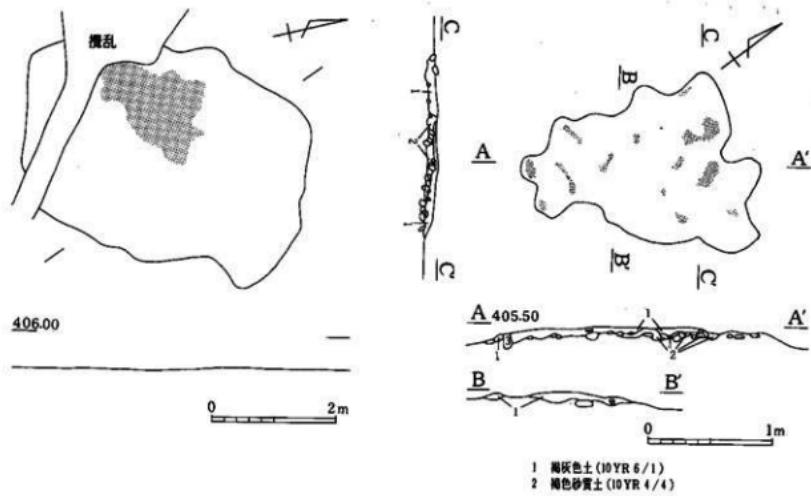
遺構番号	SB 05	検出位置	A G45	
規模	-×-×-cm	長軸	不明	平面形
検出状況	カマドの粘土・焼土のみ検出される			
重複関係	SK03に切られ SK06・SM01を切る			
壁	不明			
床	不明			
柱穴	不明			
カマド	粘土は薄く残存し上部は削平される 袖石等をぬいた跡は確認されない			
付属施設	不明			
遺物	なし			
その他	出土遺物等はなく床面の確認ができる範囲は狭い 詳細は不明			

表6 SB 05

⑤SB 06

遺構番号	SB 06	検出位置	A I 45	
規模	(508) × (356) cm	長軸	不明	平面形
検出状況	床面および粘土を確認し拡張して検出			
重複関係	SM01を切る			
壁	削平され確認できない			
床	貼床がされ全体が硬い 焼土等は確認されない			
柱穴	不明			
カマド	粘土・焼土が確認されるが袖石等はない 磁が粘土中に混じる 粘土は上部が削平され薄く広がるのみである。			
付属施設	不明			
遺物	なし			
その他	出土遺物等はなく詳細は不明			

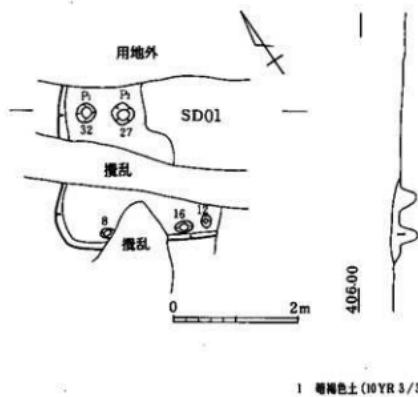
表7 SB 06



第12図 SB06

⑥SB07

⑦SB08



第13図 SB07

第14図 SB08

遺構番号	S B07		検出位置	A I 48				
規模	(254) × (260) × 12cm	長軸	不明	平面形	隅丸方形と推測される			
検出状況	埋土が明確に異なり検出							
重複関係	S D01に切られる							
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる							
床	硬い部分はない							
柱穴	主柱穴 P 1・P 2							
カマド	不明							
付属施設	不明							
遺物	なし							
その他	埋土は単層で炭等は混らない 時期等詳細は不明							

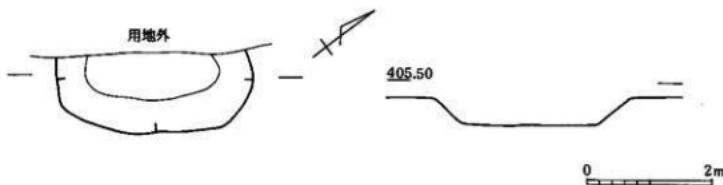
表8 S B 07

遺構番号	S B08		検出位置	AC41				
規模	(116) × (134) × -cm	長軸	不明	平面形	不明			
検出状況	床面・粘土・焼土を検出する							
重複関係	SM01を切る							
壁	削平され確認できない							
床	貼床され全体が硬い							
柱穴	P.1が柱穴と思われるが主柱穴かは不明							
カマド	カマドの痕跡と思われる粘土及び焼土を確認する 焼土は厚く堆積し床面よりやや高くなる 焼土・粘土中から遺物は出土しない							
付属施設	不明							
遺物	なし							
その他	出土遺物等ではなく床面の確認できる範囲は狭い 時期等詳細は不明							

表9 S B 08

(2) 堅穴状遺構

①SB10



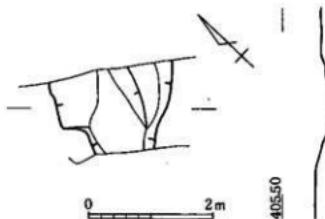
第15図 SB10

遺構番号	SB10	検出位置	A E42
規模	304 × (86) × 44cm	長軸	N30° E 平面形 不整形
検出状況	埋土が明確に異なり検出		
重複関係	SM01を切る		
壁	明確でやや緩やかに立ち上がる		
底部	ほぼ平坦で軟弱		
柱穴	不明		
付属施設	不明		
遺物	なし		
その他	調査区外に広がり埋土に礫等は混入しない 時期等詳細は不明である		

表9 SB08

(3) 溝址

①SD01



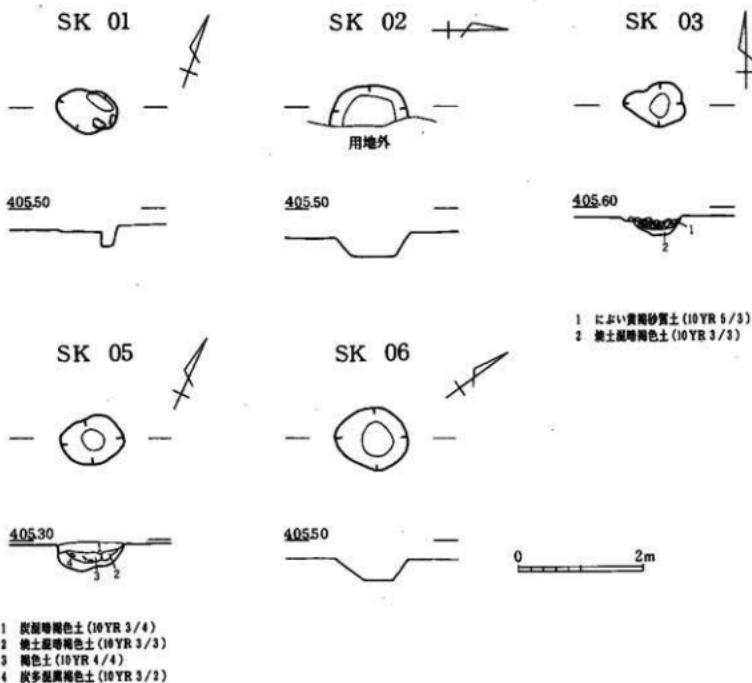
調査区北部AH-48で検出した。幅190cm前後
・深さ18cmを測り、方向はN42° Eを示す。

北側は調査区外、南側は既存建物の基礎工事により破壊される。このため長さは不明である。

埋土は白色砂で出土遺物はなく、時期等は不明であるが自然流路と考えられる。

第16図 SD01

(4) 土 坑



第17図 SK 01・02・03・05・06

No	図 No	検出位置	規模 (長軸×短軸×深さ) cm	形 態	時 期	出 土 遺 物	備 考
1	17	AC-47	96 × 68 × 28	不定形	不明	なし	埋土上層に礫が入る
2	17	AD-01	124 × (64) × 36	楕円形	不明	なし	
3	17	AG-45	97 × 69 × 31	不定形	不明	なし	
5	17	AF-44	101 × 78 × 41	楕円形	不明	なし	
6	17	AH-46	116 × 100 × 34	楕円形	不明	なし	

表11 SK 01・02・03・05・06

(5) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物についても、遺構と同様に主に2時期が確認される。

第23図1～6は土師器壺の口縁部から胴部が僅かに出土しているのみであり、古墳時代中～後期である。第23図10は屈折脚の高坏で5世紀代古墳時代中期に、また同11の高坏も龍江細新遺跡のSB48等で出土するものと同じ脚形であり、古墳時代中期後半に比定される。

第23図12～第24図8は、いずれも平安時代9世紀後半から終末にかけての遺物である。第24図7・8の灰釉陶器の皿は光が丘産と考えられ、SB09とほぼ同時期である。

第24図9・10は中世に比定され、特に10については、内面に墨汁跡が確認され、朱墨バレットとして使用されたと考えられる。

IV まとめ

今次調査によって検出された遺構・遺物については、すでに述べたとおりである。ここでは、調査によって得られた成果・問題点について、大きく3つに分けて取り上げてまとめとしたい。

1. 水佐代1号古墳について

当初は、今次調査用地内に隣接する前方後円墳である水佐代1号古墳の、周溝が確認されるのではないかと予想されていた。前方部南側は、現在宅地となっており、現況よりこの宅地建築の際、造成により墳丘が切り土されているものと考えられる。このため、墳丘は現在よりも南側に大きく広がっていたと推測でき、周溝の位置が今次調査区までおよぶ可能性があると考えられていた。

しかしその存在は確認されず、該期の古墳に伴う遺物も出土しなかった。これらより周溝は、今次調査区の北側、当初の予測より内側を巡っていることが判った。

なお、本墳の年代についてはかつての記録等により、横穴式石室を埋葬施設とする後期のものと考えられてきた。しかし、墳丘上に見られる埴輪片から判断すると5世紀まで遡ると思われ、埋葬施設も竪穴系のものである可能性が高い。

2. SM01について（墳丘墓）

墳丘墓の時期は5世紀代に位置付けたわけであるが、約1km東に位置する寺所遺跡で出土している墳丘墓とはほぼ同時期であり、貼り石を持つという点では、寺所遺跡のSM01・03に共通しており、全体は不明であるが、確認部分の周溝から規模としてはこちらの方が大きい。

今次調査で問題となる点は、水佐代2号古墳の存在位置と、確認された墳丘墓の関係である。第2図で示した位置には、2号墳墳丘である土盛りがあったと、以前より地元住民に言い伝えられてきている。しかしながらこの位置は、今次調査で確認された周溝の外側にある。もし、この位置に本当に古墳があったとすれば、今次調査区でその周溝が出土するはずであるが、痕跡は確認されなかった。

これらのことより、SM01とした墳丘墓の周溝は、水佐代2号古墳の周溝であり、かつて存在したとされる土盛りと今回の周溝の確認から、古墳として捉えうる可能性の高いものといえる。

また築造時期から、隣接する長さ50数mの前方後円墳水佐代第1号古墳を盟主とした墓域を形成しており、当地方5世紀以降の隆盛した古墳時代の一端を担った地帶として位置づけられる。

3. 平安時代集落について

今次調査により最も多く遺物が出土する時期が平安時代9世紀後半であることは、調査結果より明確である。今次調査以前に本遺跡内においては、市内遺跡詳細分布調査等において該期の遺物は採取されるものの、遺構の確認はされていなかった。

飯田市内における該期集落は、低位段丘上の遺跡として北は座光寺地区の恒川遺跡から上郷地区の塙垣外あるいは矢崎遺跡において奈良時代以降広がりを見せ、また南では松尾地区の清水遺跡・竜丘地区の安宅遺跡・龍江地区の細新遺跡などがある。

中位段丘上の遺跡としては、鼎地区日向田遺跡・八幡原遺跡・猿小湯遺跡などにおいても集落址が確認されている。

これらの遺跡の分布状況を見ると、天竜川に近い中低位段丘上に比較的大規模な集落が展開する様相であり、前時代に整備された律令の東山道筋に形成されたと考えられる。本遺跡も、当然律令末期の伊那郡を支えた重要な集落の一つとして位置づけられるものといえる。

また、該期遺物のほとんどはSB09一軒よりの出土であり、投棄された感じすら伺えるほどの出土のしかたであり、その多さは市内で確認された該期住居址では他に例はない。カマドを有する点から住居址と言えるわけではあるが、その平面形は不整形であり、一般的の住居とは異なった性格を考えるべき遺構ともいえる。今後、出土遺物に関する詳細な検討を行なうなど、本遺構の性格を明らかにすることにより、本遺跡そのものの有する意味を把握することが可能となり、それによって当地方の平安時代のありさまを知ることができる重要な資料であることはいうまでもない。

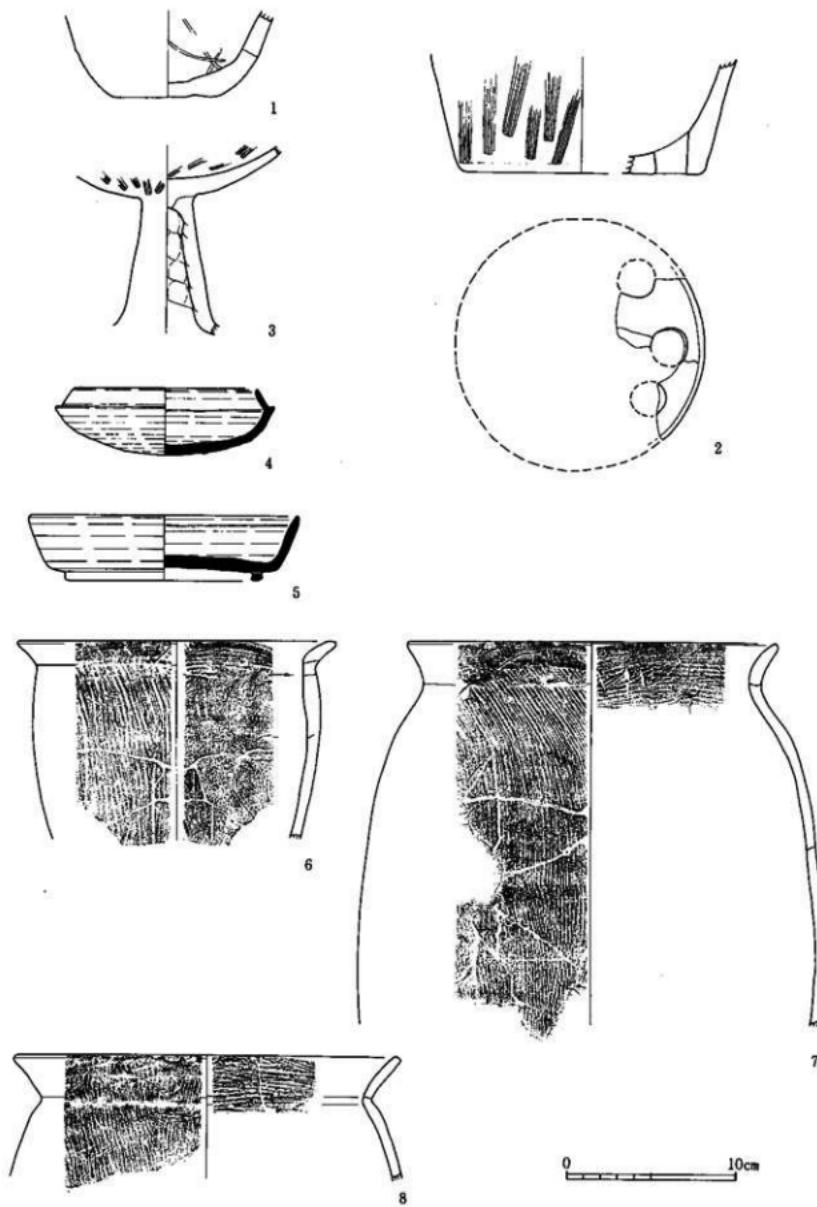
限られた範囲内での調査であり、古墳時代については墳丘墓の平面形・埋葬形態等明らかにできなかったわけであるが、今後隣接する寺所遺跡の類例も含めて、当地方の墓制を整理する中で墳丘墓の意義が明らかになると考えられ、今後の課題である。

また、平安時代連続して集落が営まれていたかどうかについても不明である。しかしながら飯田市内全域から見て、本遺跡において平安時代9世紀後半の住居址が確認されたことは、該期の松尾地区さらに当地方全体での様相を明らかにしていく上で、大きな成果であると言えよう。

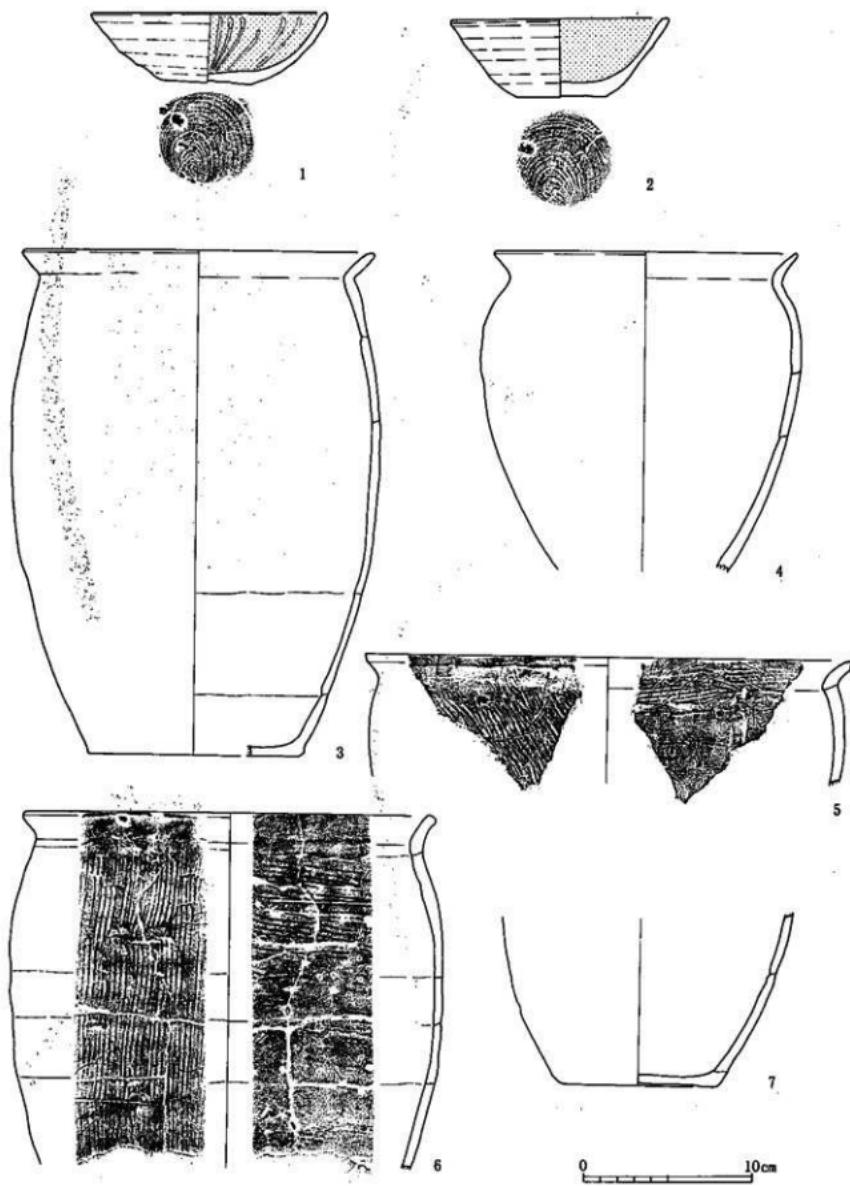
引用・参考文献

- | | |
|--------------|--|
| 飯田市教育委員会 | 1995 安宅遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1991 城遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1991 清水遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1992 八幡原遺跡 物見塚古墳 |
| 飯田市教育委員会 | 1992 八幡原遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1992 猿小湯遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1993 久井遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1993 田園遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1994 日向田遺跡Ⅲ |
| 飯田市教育委員会 | 1998 龍江細新遺跡 |
| 飯田市教育委員会 | 1999 寺所遺跡 |
| 大沢和夫他 | 1982 松尾村誌 |
| 上郷町教育委員会 | 1988 矢崎遺跡 |
| 橋崎彰一他 | 1979 世界陶磁全集2 日本古代 |
| 長野県埋蔵文化財センター | 1990 中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書
—松本市内その1— 終論編 |

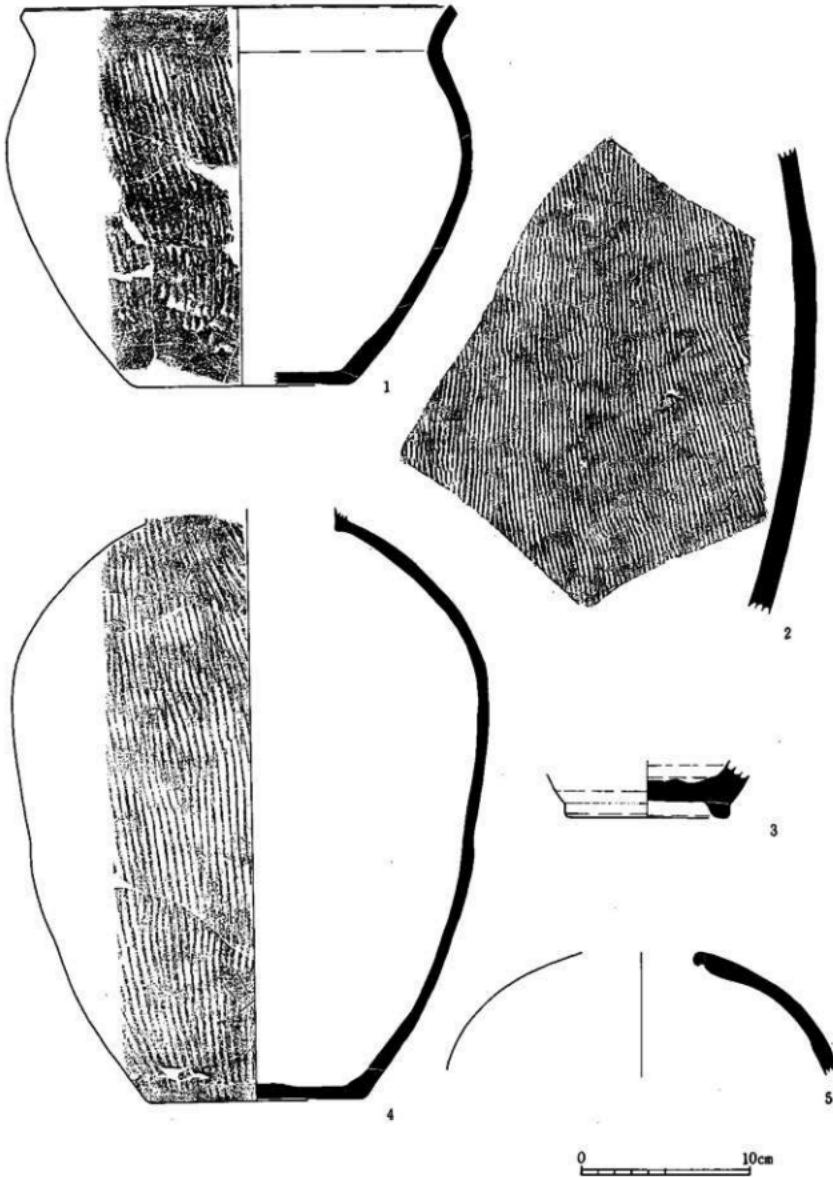
遺 物 図 版



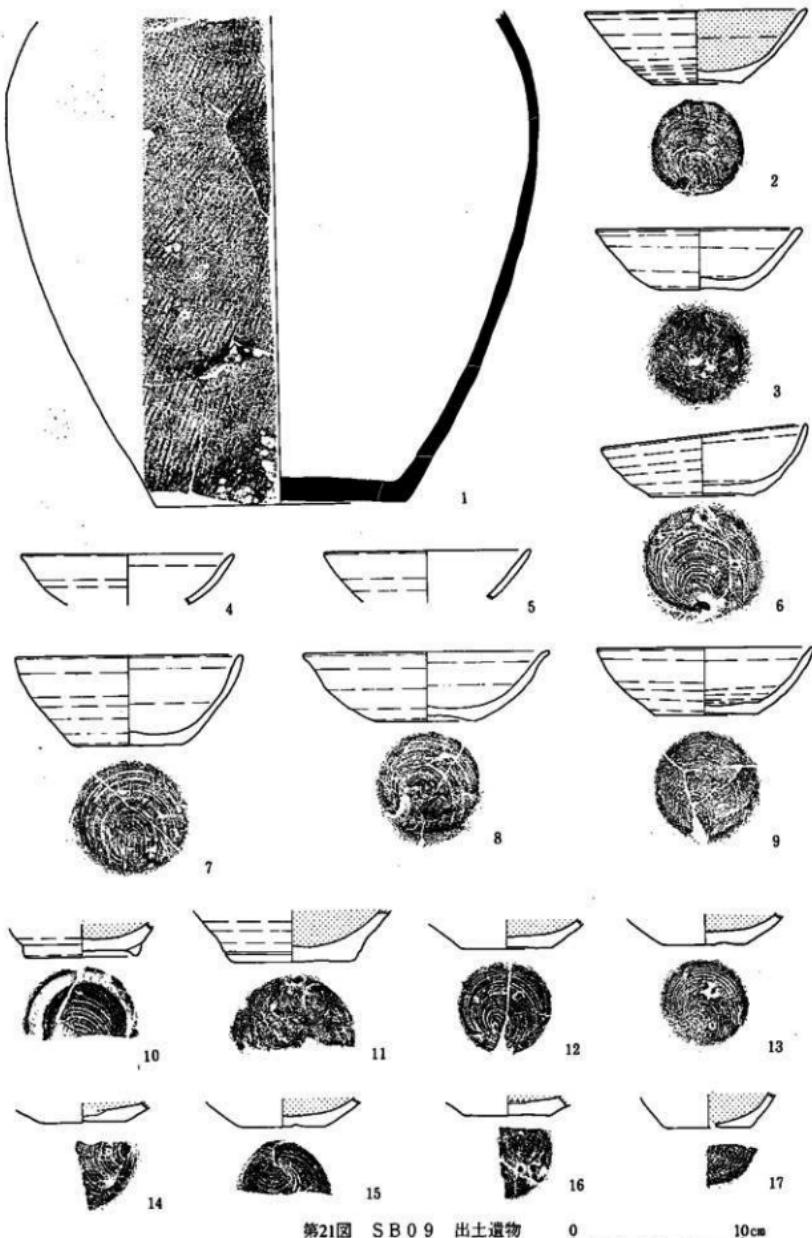
第18図 出土遺物 1~5 SM01
6~8 SB01



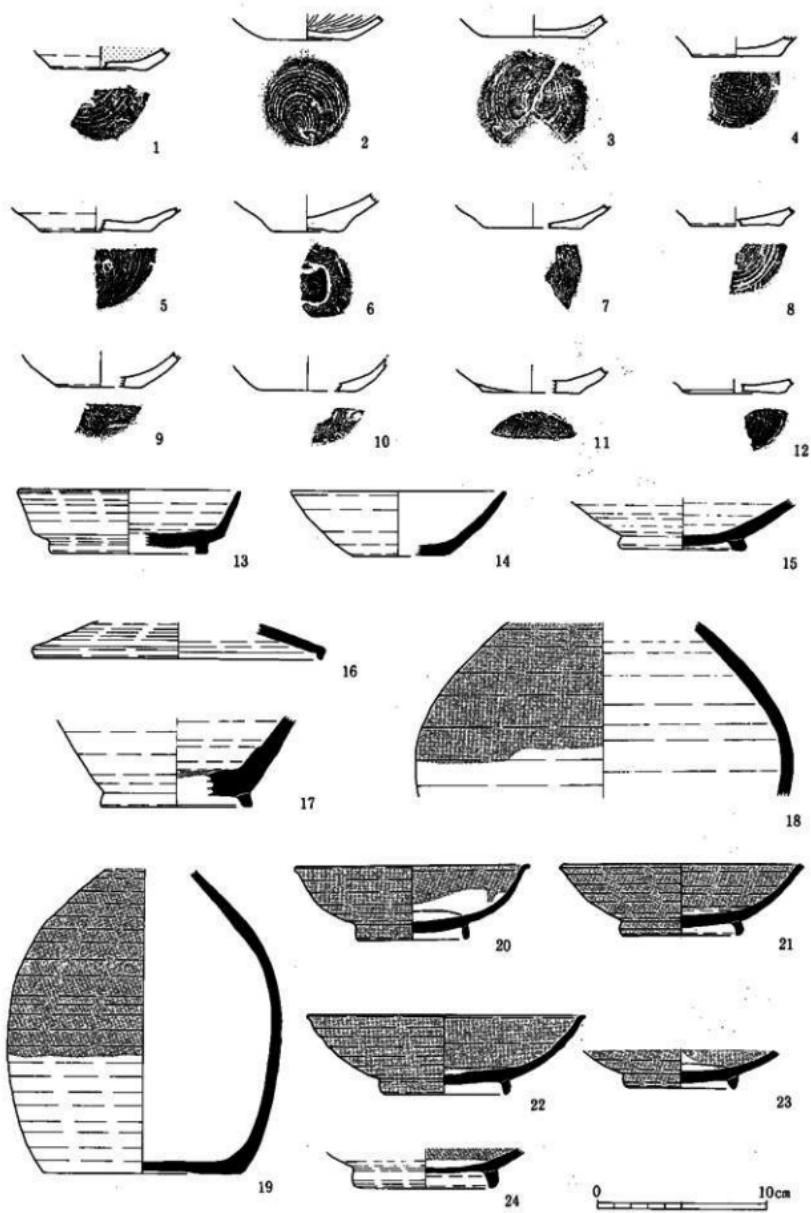
第19図 出土遺物 1~2 SB 01
3~7 SB 09



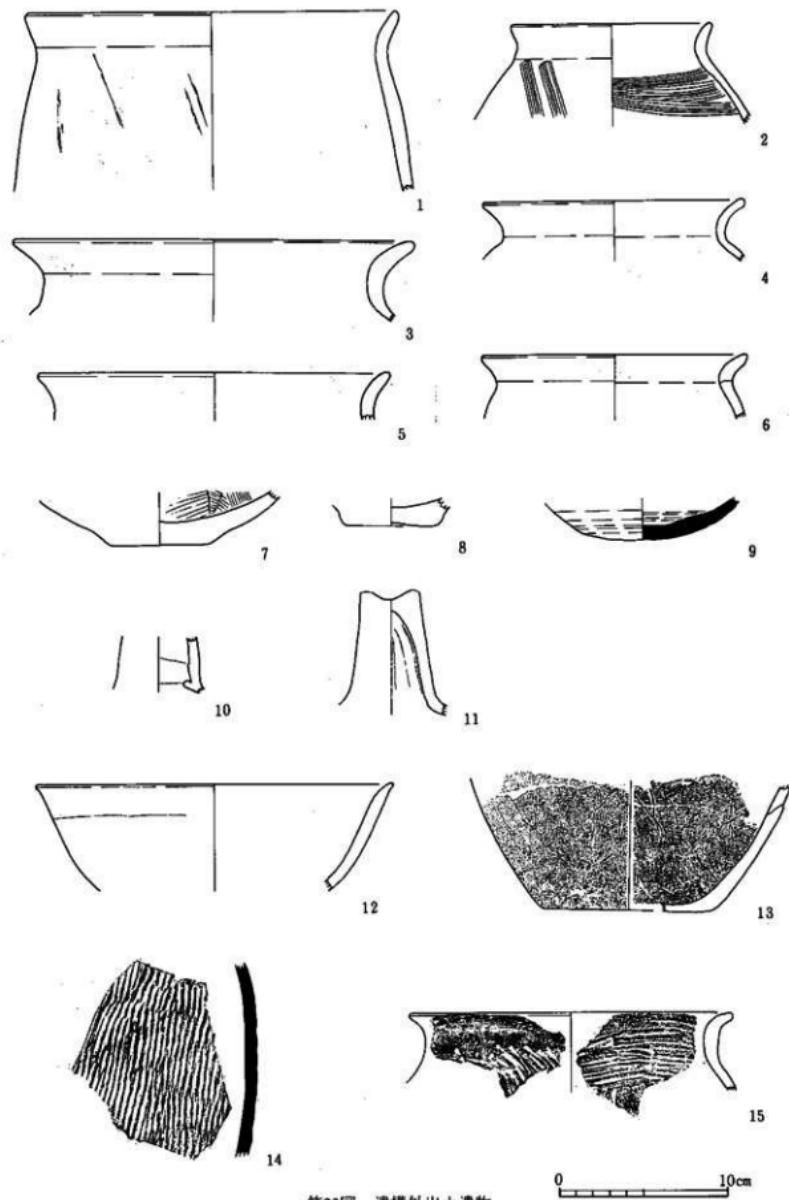
第20図 SB 09 出土遺物



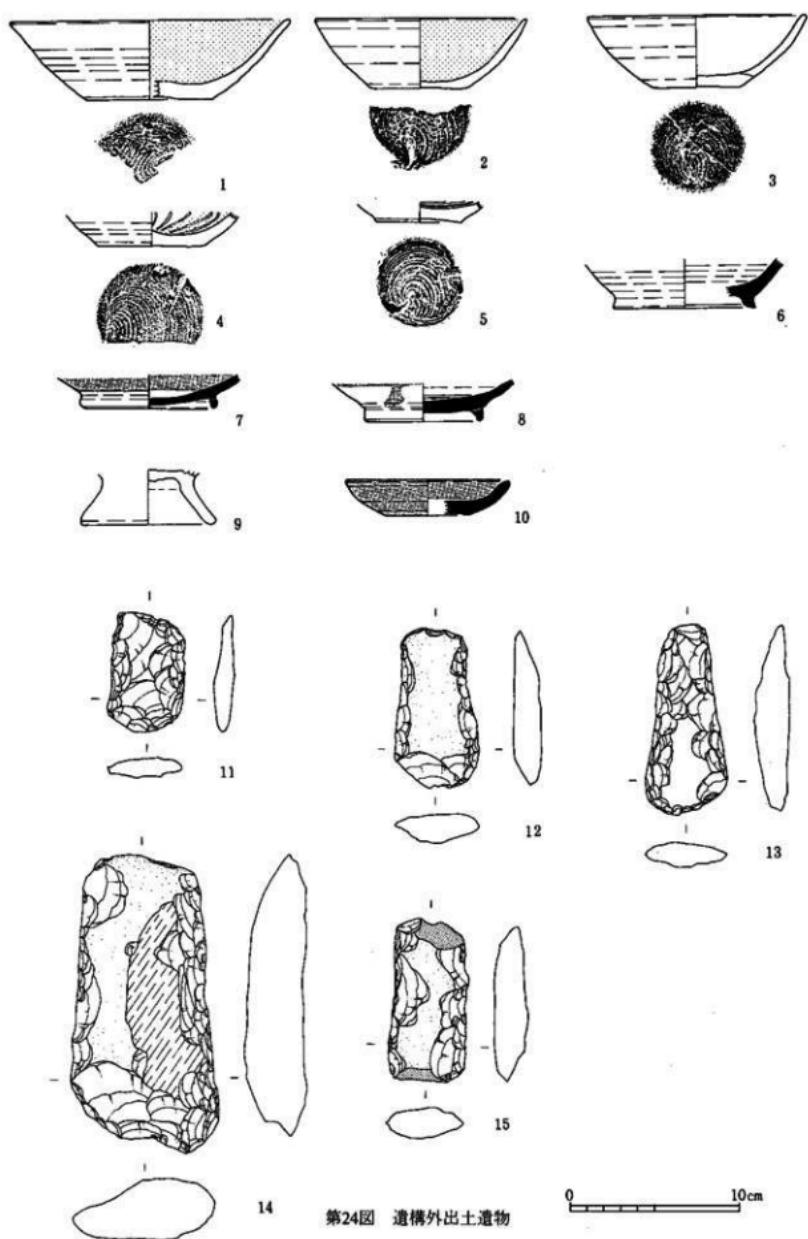
第21図 SB 09 出土遺物



第22図 SB 09 出土遺物

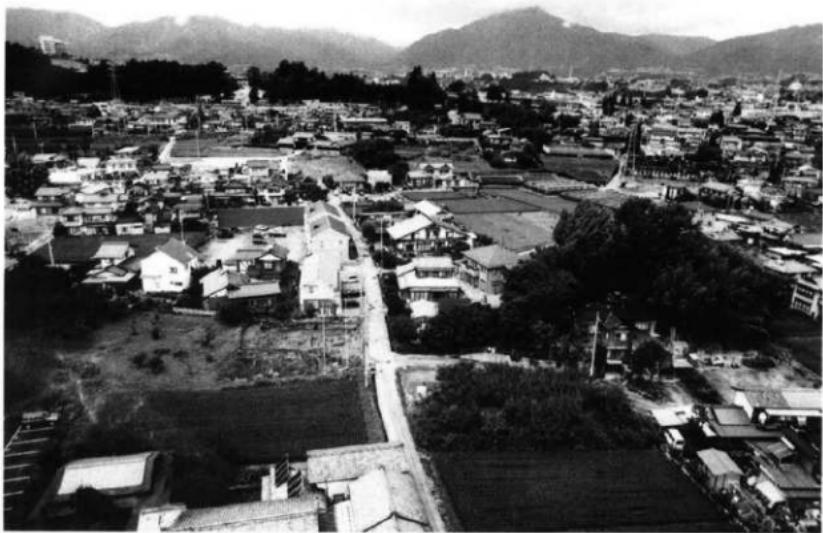


第23図 遺構外出土遺物

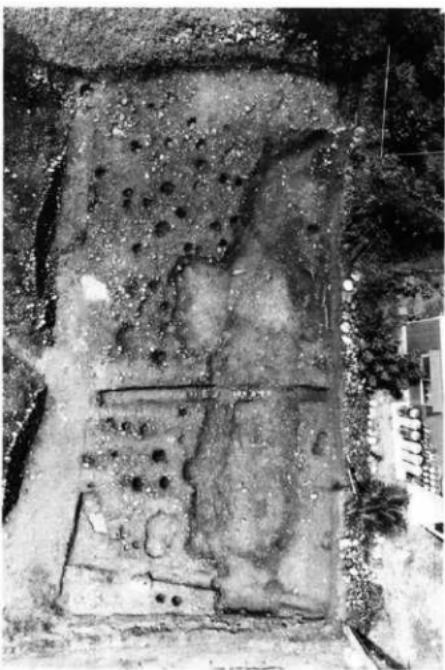


第24図 遺構外出土遺物

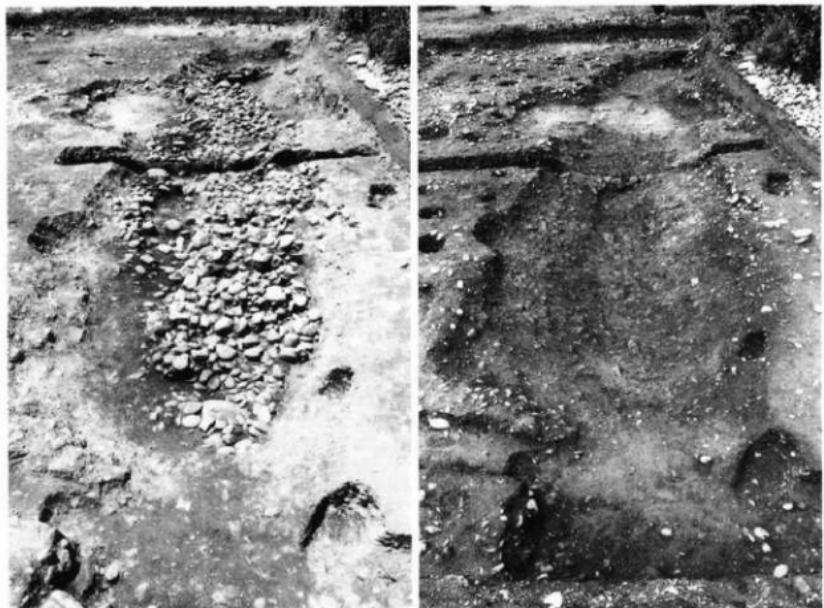
写 真 図 版



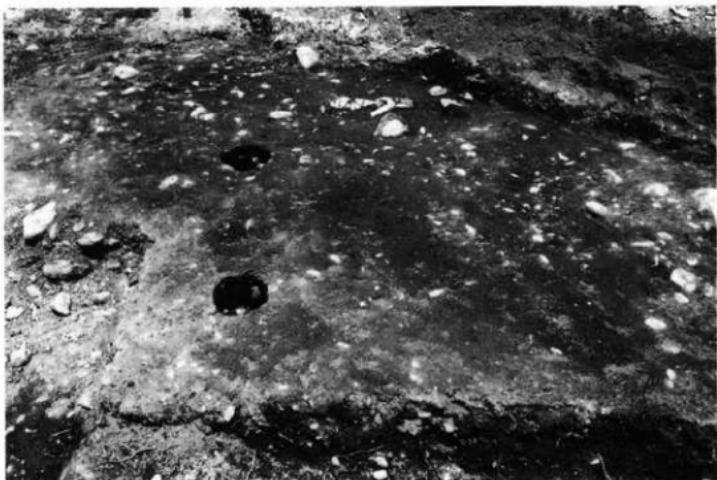
水城遺跡遠景



調査区全景



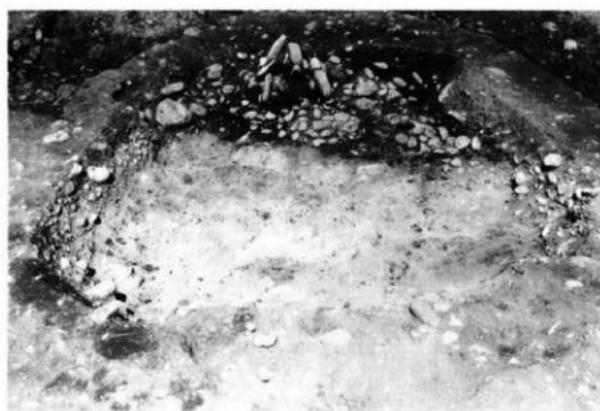
SMO 1



SB0 1



S B 0 1 遺物出土状態



S B 0 9



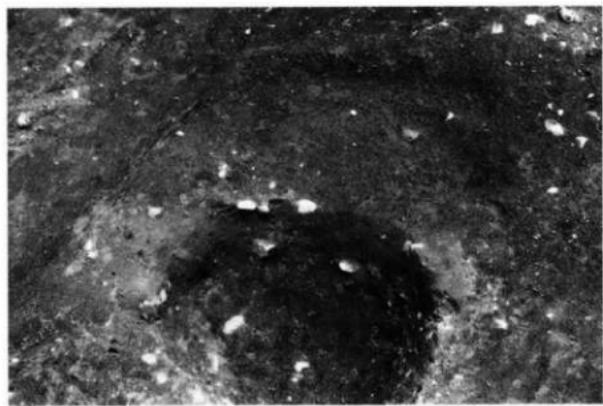
S B 0 9 カマド



SB 09 遺物出土状態



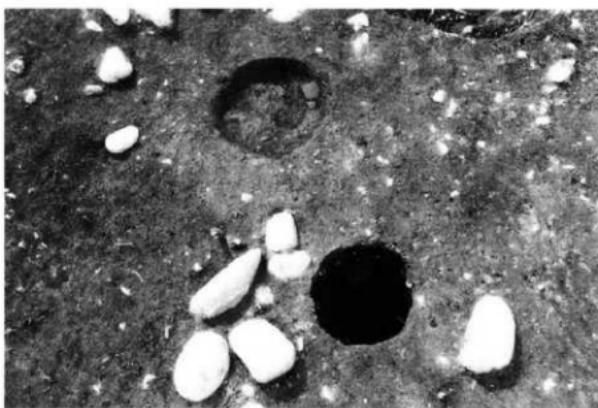
SB 02



SB 05



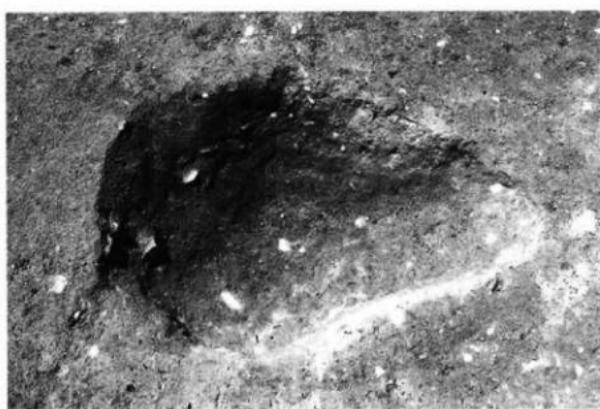
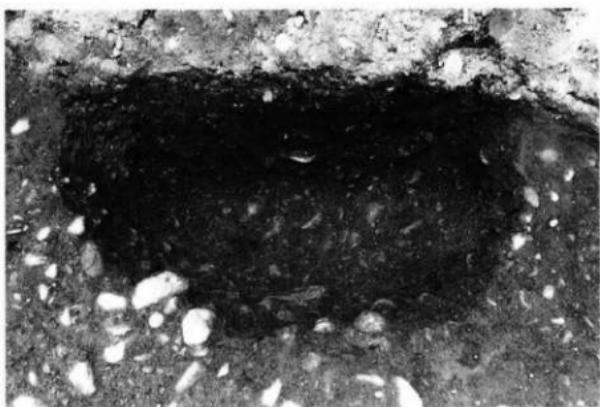
S B 0 7



S B 0 8



S K 0 1



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



委託基準点測量作業



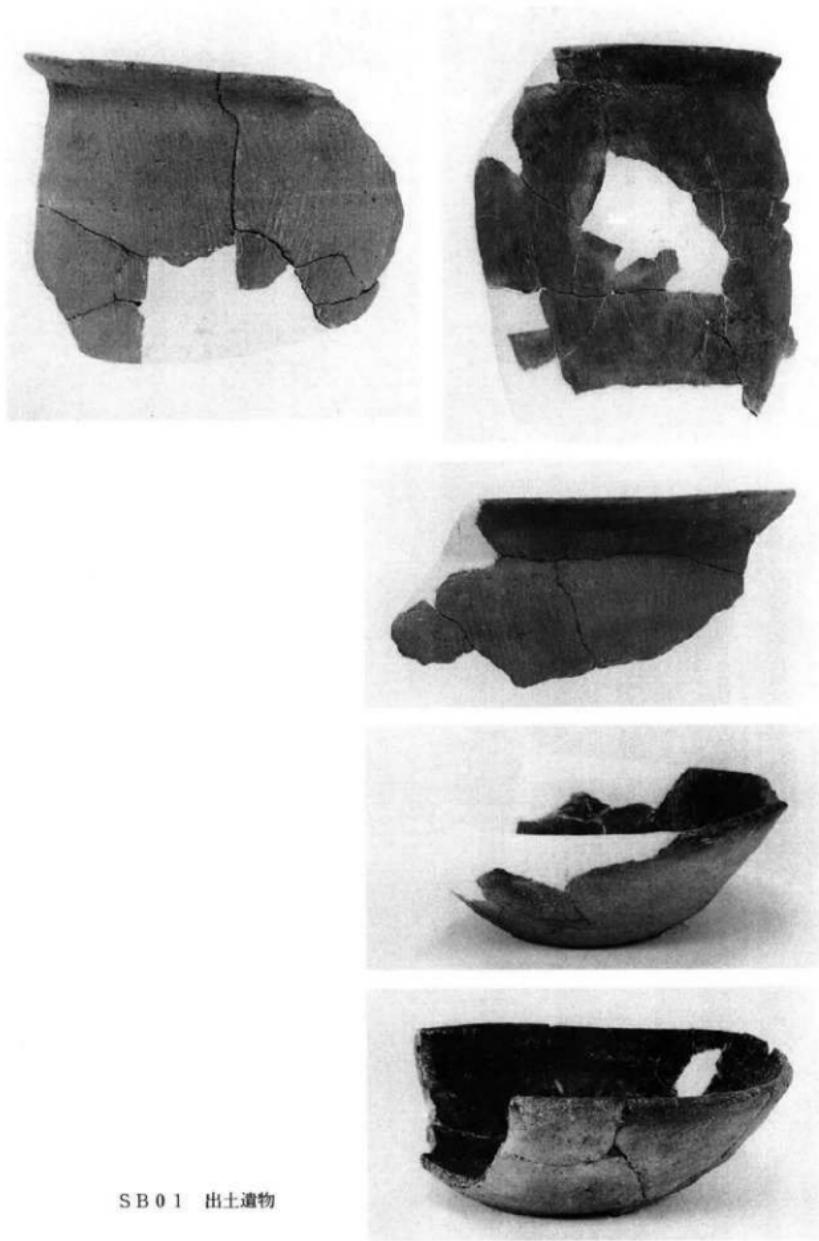
委託空中写真撮影



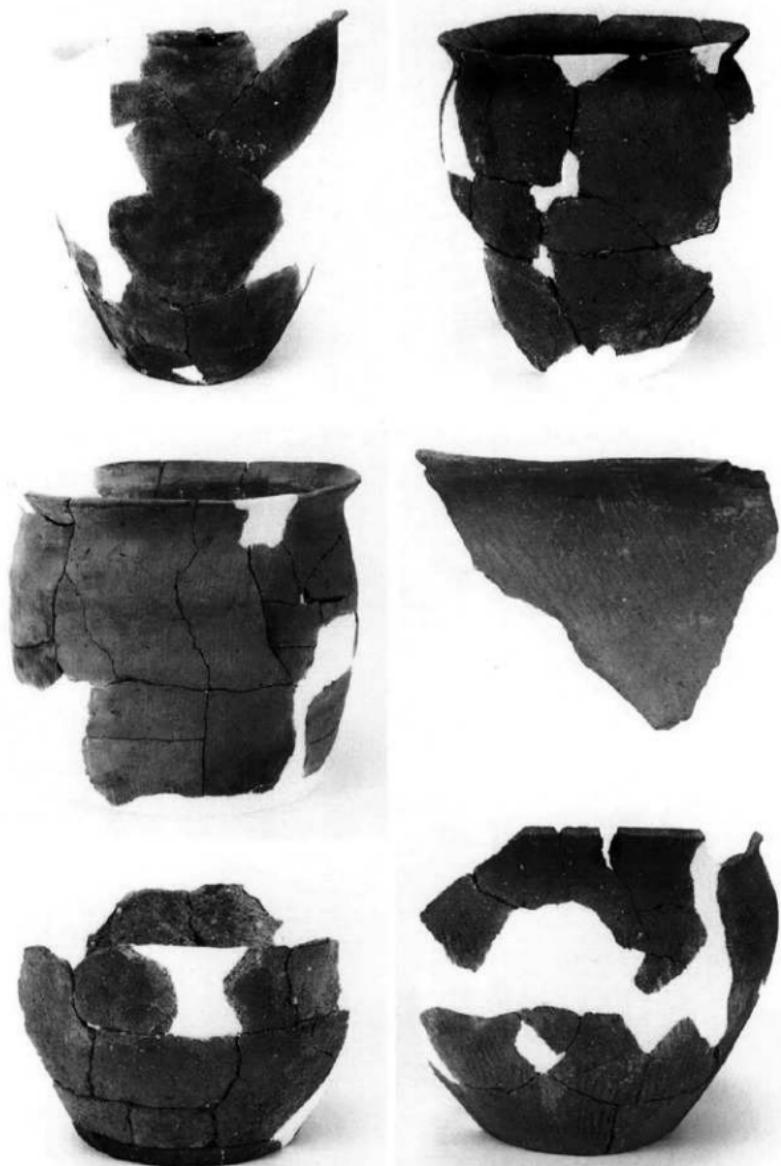
重機表土剥作業



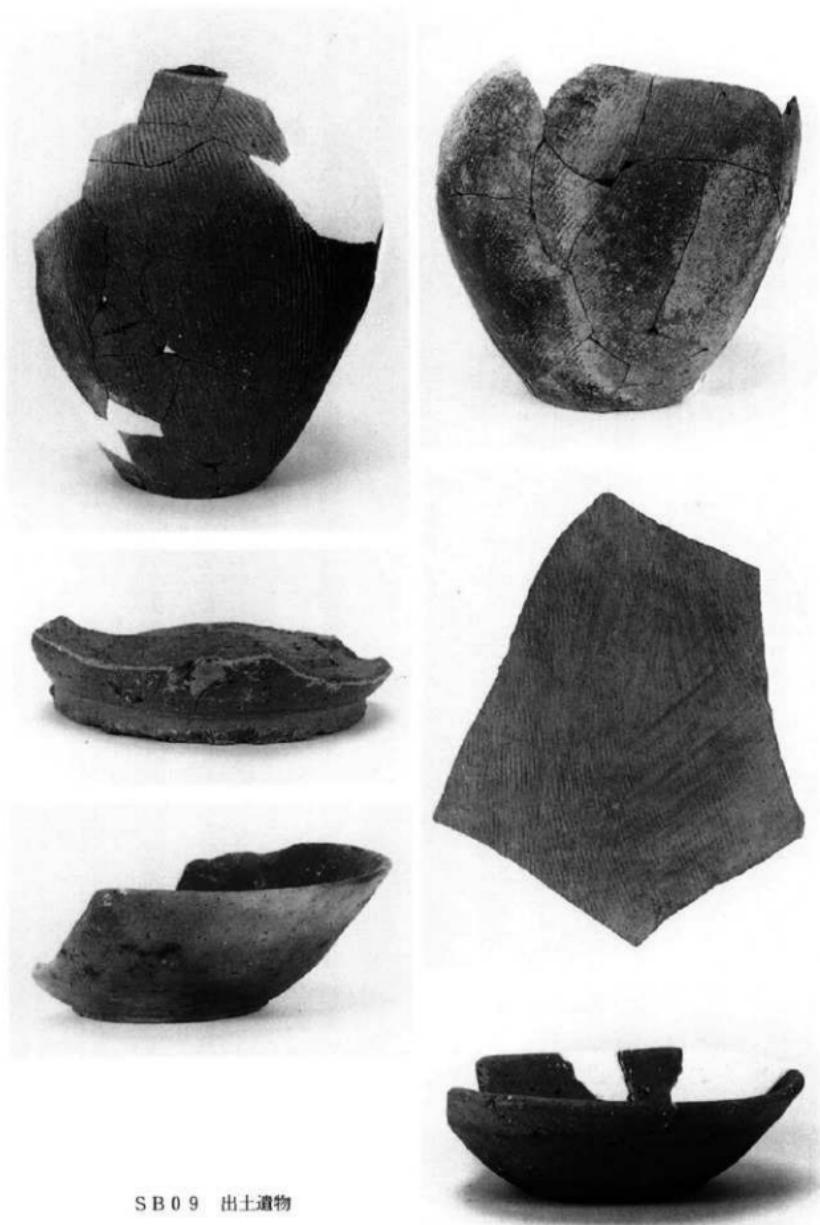
SM 01 出土遺物



SB 01 出土遺物



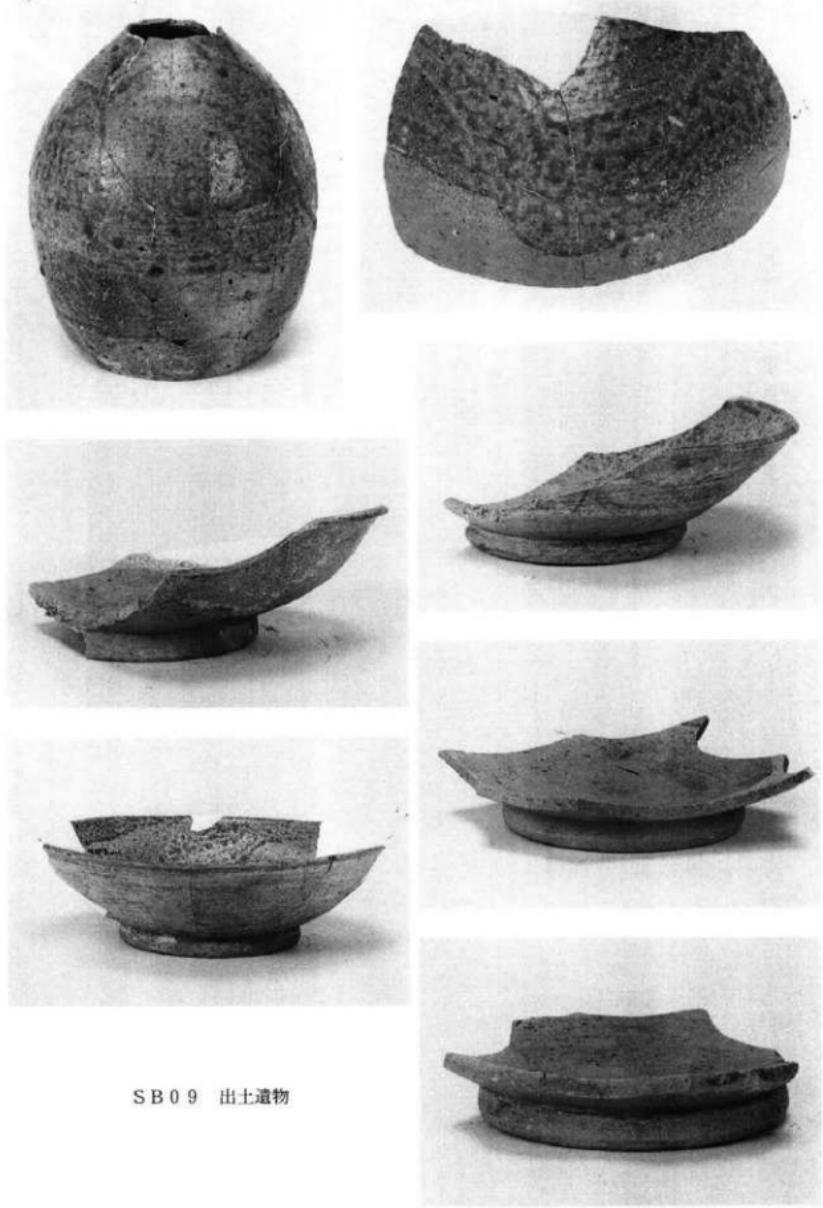
SB09 出土遺物



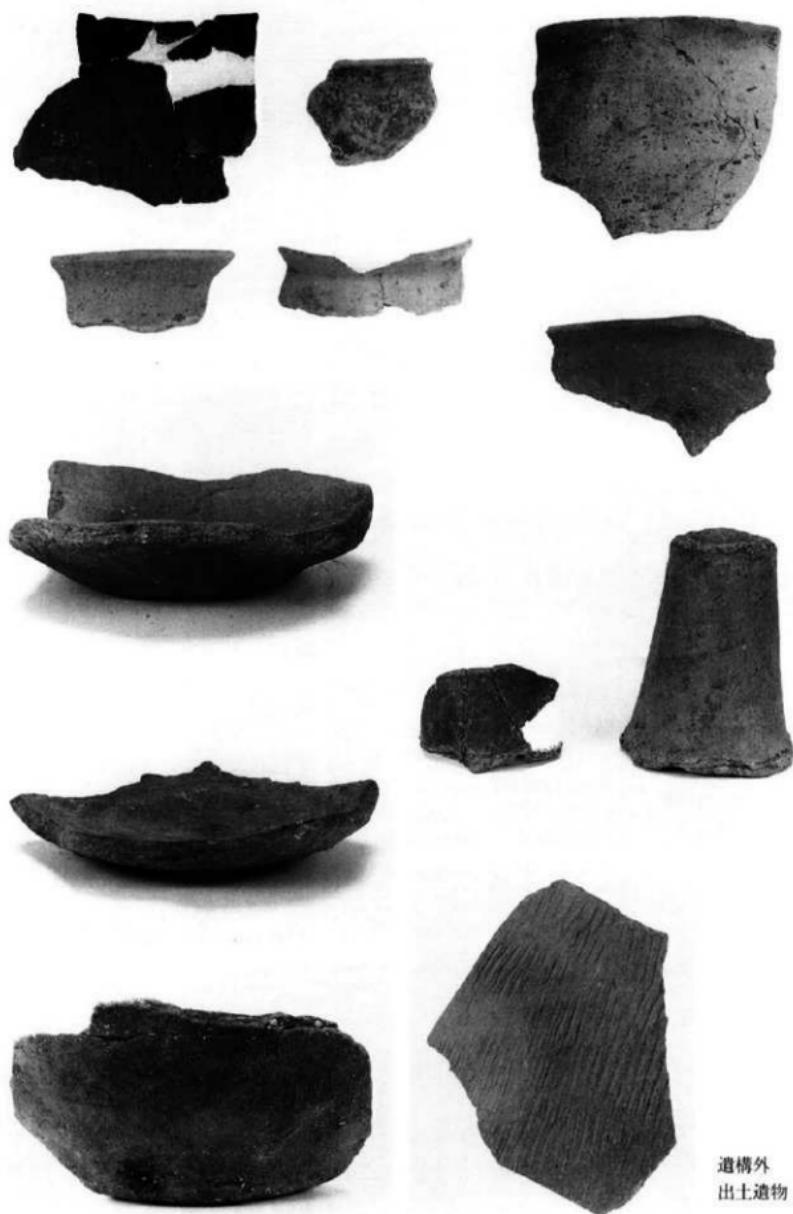
S B 0 9 出土遺物



SB09 出土遺物



SB 09 出土遺物



遺構外
出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	みさじろいせき						
書名	水城遺跡						
副書名							
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	福澤好晃						
編集機関	長野県飯田市教育委員会						
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-53-4545						
発行年月日	西暦1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
みさじろいせき 水城遺跡	いいだしまつお 飯田市松尾 3575番地	2053	35° 29' 35"	137° 51' 05"	平成9年 6月4日～ 半成9年 8月11日	400 m ²	コミュニティー 消防センター
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
水城遺跡	墓域	古墳時代	墳丘墓	1基	古墳時代 土師・須恵器		
	集落址	平安時代 時期不明	豎穴住居址 豎穴状遺構 溝 壴 土 抗	2軒	平安時代 土師・須恵器 灰釉陶器		
				7軒	中世		
				1基			

水城遺跡

1999年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市教育委員会
長野県飯田市上郷飯沼3145

印 刷 株式会社新葉社
